

GWI 卓越した平和の擁護者、コフィ・アナンに敬意を表す

GWIは先頃のコフィ・アナンの訃報に接し、彼の家族、友人、同僚に心からの哀悼の意を表す。

1997年～2006年まで第7代国際連合事務総長を務めたガーナ出身の外交官は平和で持続可能な社会を促進するにあたり発展のためのツールとして女性のエンパワメントに特に全力を注いだ改革の先駆者であった。アントニオ・グテーレス国連事務総長は「多くの意味で、コフィ・アナンは国連そのものを体現した」と述べた。

国連人権理事会議長ヴォイスラヴ・シュッツ Vojislav Šuc は次の感動的な声明をリリースした。

「コフィ・アナンの訃報を聞いて、私は深く悲しんでいる。氏は平和、正義、人権の世界一の擁護者だった。コフィ・アナンは人権の概念を体現した。氏は、数かぎりない世界の課題に直面する国連が多く崇高な任務を遂行するために尽力し、そこに新鮮な空気を持ち込んだ比類ない先見性の持ち主だった。ほぼ12年前に人権理事会の創設につなげたのはこの先見性だった」

ザイド・ラード・アル・フセイン Zeid Ra'ad Al Hussein 前国連人権高等弁務官は心からの哀悼の意を公表した。「私はコフィ・アナンの死を受け、悲しみに打ちひしがれている。コフィは人間の礼節と品位を絵に描いたような人間性の鑑だった。コフィとは似ても似つかぬ指導者で溢れている今の世界では、ますます痛い喪失である。[...] 私たちにとってかけがえのないと思える素晴らしい人は他にもいるが、コフィは抜きん出ている。さようなら友よ。さようならコフィ」

GWI は長年女性と女兒の権利擁護の先頭に立った立派な外交官のご逝去に対し改めて弔意を述べるものである。

パラグアイ大卒女性連盟の加盟を祝して

パラグアイ大卒女性連盟が我々大卒女性の国際的ネットワークに加盟したと発表できることは、GWI（国際大学女性連盟）の大きな喜びである。PFGW はパラグアイのアスンシオン市にあり、Malvina Segovia 会長と María José García 副会長が率いて、CIR の Paola de la Sobera、書記の Fátima Fleitas、財務の Ana Acosta が支える。「女性の教育や女性に関する事項について世論を刺激し、女兒や女性にとっての懸案を代弁する」という PFGW の使命に GWI は熱い思いで賛同する。

設立規約で述べられているように、PFGW は他にも「女性の権利と福祉に影響を与える立法の推進」、および「パラグアイ内外で公共、民間、非政府セクターの女性の活動的なネットワーク構築」に努めるとしている。

「我々GWIの中にPFGWが加わることによって、たくさんの経験、知識、専門性を持ったメンバーを獲得できました。」とGWI会員担当副会長 Eileen Focke-Bakker が語り、「GWIファミリーへ喜んでお迎えし

ます。2019年のジュネーブ総会で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。」と付け加えた。PFGWが様々な優れた女性たちを最新のNFAとして一団体に組織化した努力をGWIは称賛し、彼女たちの目的を達成するために共に活動していくことを誓う。

GWI 創立百周年記念総会「教育を通して平和を」の開催を国際平和デーに発表

今年、9月21日の国際平和デーにあたり、来たる2019年7月25日から28日にスイスのジュネーブで開催する創立百周年記念総会のテーマ「教育を通して平和を」に則して、GWIは世界の平和と安定を実現するために教育が果たす根本的な役割を強調したい。

2019年に設立100周年を迎えるGWIは、この重要な節目の年に、平和構築に関する以下の一連のサブテーマに焦点を当てた対話型のワークショップやセミナーを組み込んだ総会を開くこととしている。そのサブテーマとは、どうしたら教育が紛争を防止し社会を変革できるか、カリキュラムはどのように家長制のような社会的パラダイムを解体し平和な非暴力の文化をもたらせるか、紛争の横行する繋がった今の世界に生きることが何を意味するのか、若い専門家が教育、男女平等問題、文化の変化と環境問題の繋がりを見出せるようにする方法とは、大卒女性はそれぞれの地域や国、そして国際政策において、教育、平和、提言および行動が相交わる場面でどのように活動し、グローバル社会に影響を与えられるか、である。

年月の経過とともに組織が変化しようとも、変わらないことはGWI創立者のビジョンである。GWI現会長 Geeta Desai は次のように述べる、「第一次世界大戦末に、会の創立者である Virginia Gildersleeve, Caroline Spurgeon, Rose Sidgwick の三氏は、相互に敬い、強い友情で結ばれ、国境を越えて働いている、そういう大卒女性たちには、平和に生きる権利に加えて、すべての人々が人権を保障される世界を推進していくリーダーシップが備わっている、と信じていた。100周年記念を前に、この普遍のビジョンを思い起こすようにと、母なる創設者たちの声が聞こえてくる。それゆえ、戦火に追われ、また敵対により亡くなる人が全世界の半数を超え、20万人以上の難民や流民がおり、そして紛争や戦争で女性や女兒が不当に高い犠牲を払わされている今、教育が平和を築く上で果たせる役割を協議する場をGWIが提供する以上に相応しいことはない」と。